

甲斐市立玉幡小学校 自己評価書

平成29年 1月31日(火)作成

校長 「小川 啓介」

記述 (教頭)「河野 瑞穂」

学校教育目標 『知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成』

学校経営方針 「毎日が楽しい学校にしよう」

- ① 適切な教育課程の編成と実施に努める。
- ② 学習規律の徹底と学習環境の向上を通して、確かな学力の育成に努める。
- ③ 思いやりの心が育つ学級・学校づくりに努める。
- ④ 児童の体力向上・健康増進に努める。
- ⑤ 安全教育の充実と開かれた学校づくり努める。

1 全体評価

- ・「教職員自己評価」「保護者アンケート」「児童アンケート」の3つのアンケートを実施した。結果は、A評価(そう思う)とB評価(ややそう思う)を合わせて肯定的な評価として捉えることとした。
- ・全般的に教職員・児童・保護者のアンケート結果はどの項目も肯定的な評価結果であり、学校教育を全体的な視点でみた時、本校教育が充実した上に行われていることがうかがえる。
- ・児童アンケートの集計結果から、「学校が楽しいですか」の質問項目にほとんどの児童が肯定的評価をしていることから、概ね楽しい学校生活を送っていると考えられる。しかし、否定的評価の児童がいることには、引き続き留意し、今後の適切な指導が必要となってくる。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 ・「学校教育目標・学校経営」については、肯定的評価がすべての項目で100%であった。学校教育目標を踏まえた教育活動が計画的に行われている。また、学校全体では、PDCAサイクルを生かしながら、教育活動が展開されている。個人によるPDCAサイクルについては、さらに取り組みを進める必要がある。

改善策 ・PDCAサイクルについては、今後も行事や活動の反省を必ず実施していく。全職員で課題と改善策を明確にし、次の教育活動に生かすことに組織的に取り組んでいきたい。日々の授業、学校行事等すべての教育活動にPDCAサイクルを意識していく。

II 学校運営について

達成状況 ・学校運営についても、肯定的評価がすべての項目で100%であった。特に「安全点検の処理・報告」と「教職員間の相互理解と信頼関係」の項目は、A回答が9割を超えている。「危機管理マニュアルの理解」「校内研究への主体的な関わり」については、さらに努力を要する。

改善策 ・危機管理に関しては、今年度「危機管理マニュアルダイジェスト版」と「緊急時対応指示カード」を配付した。これらを活用した職員の学習会・訓練も行っていきたい。避難訓練では、予告なしの訓練を何回か実施することができた。訓練から得たことをマニュアルに反映させながら、さらによりよいものになるよう全職員で考えていく。校内研究では、全職員が主体的に研究に関われるような工夫をさらに進めていく。

III 学習指導について(児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)

達成状況 ・教職員の自己評価では、学習指導についても、肯定的評価がすべての項目で100%であった。「基礎基本の定着を図る授業」「教材や備品等を活用する授業」については、A評価が特に高い。授業改善の意識が高くなってきた成果だと考えられる。一方「評価規準と評価方法を明確にした授業」については、さらに努力を要する結果となった。

・児童・保護者アンケートからは、楽しく学校生活を送り、勉強も楽しくしている児童の姿が見えてくる。しかし、家庭学習の目標時間を達成している児童は約7割にとどまっている。また、自

	<p>主学習をしている児童は、約4割で市全体の回答率より15ポイントほど低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で読書をする時間が短い、平日に読書をしないう児童が、約2割いる。一方で10時以降に寝る児童が約2割いる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを授業に生かすためには、児童の見取り、評価が大切である。授業改善を進めるために、「やまなしスタンダード」を意識しながら、学習課題と共に評価規準も明確にする授業づくりをおこなっていく。 ・「家庭学習の手引き」「がんばるカード」のさらなる活用をすすめ、より一層の家庭学習習慣の確立につなげたい。今年度も、6年スマホ教室を実施したが、所持率が大変高いことが分かった。来年度は、中学年からインターネットやスマホに関する学習会を実施したい。「ネットに依存しない、きまりよい生活」についての保護者の啓発も行なっていく。 ・学校での朝読書や家庭での読書がさらに充実するように、改善を図っていききたい。
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、生徒指導委員会・特別支援委員会が立ち上がり、気になる児童の実態把握と具体的な指導法や支援について考えあうことができた。職員間で共通理解を図り、全職員で児童に関わることができた。また、学校のきまり、いじめや不登校等について見直したり学んだりできた。 ・「きまりを守る」「清掃をしっかりとる」「あいさつをする」「児童会活動」などについて、児童の肯定的回答が9割を超えている。規範意識が高まっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のある児童に対しては、生徒指導委員会・特別支援委員会の機能をさらに高め、Q-Uも活用しながら、きめ細かな対応をしていく。また、スクールカウンセラーや外部関係機関の連携を強めて、児童指導にあたっていく。 ・これからも、きまりを守り、「甲斐っ子の宝」「玉幡小学校の宝」を意識して頑張っている児童の姿を認め、褒めながら、学校全体の自尊感情を育てていきたい。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の肯定的回答が全般に高く、お便りやHP、授業参観、学校開放日等により、学校の様子が保護者によく伝わっていることがわかる。「学校は、保護者・地域の声を聞いている」についても、昨年度より、数値が上がっている。 ・書写、調理実習、図工、水泳、読み聞かせ、稲作、八幡芋づくり、福祉体験、昔の遊びなどの学習で、保護者、地域の方々にたくさんボランティアとしておいでいただいた。目数、手数が増えることで、行き届いた指導ができる、児童が安心して学習にのぞめる、いろいろな人との出会いがある、外部の人に接するマナーを学ぶ場ともなる、児童の学習意欲が高まる等、利点が多く成果もあがった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、各担任が、連絡帳や電話連絡、家庭訪問等をしながら、保護者と丁寧に関わってきた。これらを引き続き行いながら、保護者の信頼を得ていく。 ・これまでの学習ボランティアをさらにすすめて、「学校応援団 チームたまはた」として整え、参加者を募り、活用しながら、保護者・地域との連携をさらにすすめていく。学校にも、ボランティアの方々にも負担にならないような運用をしていきたい。
<p>3 まとめ</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標、学校経営方針の全職員の共通理解もと、適切な学校運営ができている。 ・保護者・地域と学校が良好な関係を築いており、人間性豊かな児童の育成を目指し、学校教育活動が推進されている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習、自主学習への取り組みの向上。 ・読書活動の推進 ・「学校応援団 チームたまはた」の活動の充実。 ・1人の児童理解に心がけ、どの子も楽しく登校できる学校づくり。 	